



2017・10・11

第 286 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 3000 万署名成功へ、対話と宣伝を草の根から

### 九条の会が記者会見、声明発表

九条の会は10月5日記者会見をおこない、声明「戦後日本の歴史と憲法の岐路に立って」を発表しました。

記者会見には世話人の池田香代子、伊藤千尋の両氏が参加しました。

声明との関連で伊藤さんは、自らが参加した東北アジア平和フォーラムの論議にふれ、9条をもつ日本が70年にわたってアジアでの衝突を回避してきたことを自覚し、今日の危機を打開することへの期待がよせられたことを紹介しました。

池田さんは、希望の党の小池代表が安倍首相と組む可能性は高く、そうすれば大きな改憲勢力が形成されることになり、全体主義に踏み込むことになると、強い警戒感を表明しました。

#### 【声明】

#### 戦後日本の歴史と 憲法の岐路に立って

2017年10月5日 九条の会

安倍首相は、臨時国会冒頭に解散し総選

挙に打って出ました。野党による憲法に基づく再三にわたる臨時国会開催要求を無視しながら森友・加計問題をはじめとする疑惑隠しをはかる憲法破壊の暴挙です。重大なことは、首相が、この総選挙を、政権延命をはかるにとどまらず、安倍政権への批判の高まりのなかで強行のメドが危うくなった憲法「改正」実行のお墨付きを得る好機と位置づけたことです。

自民党は、選挙の重点公約のひとつに、憲法9条に自衛隊を明記することを中心とする改憲を掲げました。過去に改憲の野望を抱いた首相は少なくありませんが、国民の批判を恐れ選挙戦ではそれを正面から争点にした例はありませんでした。自民党が改憲を旗印に選挙を戦うのは結党以来はじめてのことであり、容易ならぬ事態です。しかも解散直前になって、安倍政治を変えようことを標榜して希望の党が旗揚げし、改憲勢力の一翼として登場しました。この結果、たとえ国民の批判を浴びて自公勢力が後退しても、希望の党や日本維新の会などと合わせ改憲勢力が3分の2を占める危険性が高まりました。そうした事態を許すならば、改憲派が2018年通常国会での改憲発

議をねらってくることは間違いありません。

9条への自衛隊明示は、安倍首相の「何も変わらない」という言明に反して、戦後日本が築いてきた「戦争しない国」の転換をもたらすことは明らかです。

もし9条に自衛隊が明記されることになれば、9条の「武力によらない平和」の理念と真っ向から矛盾する「武力による平和」が明示され、9条の根本的改変が起こることは明らかです。

また、自衛隊が憲法上認められることで、これまで「自衛隊は9条2項が保持を禁止している『戦力』ではない」というために政府が積み上げてきた自衛隊の活動を制約する解釈の撤回、さらなる空文化が起こります。しかも、この改憲で合憲とされる自衛隊は、違憲な戦争法によって海外での武力行使を認められた自衛隊なのです。

安倍首相は、北朝鮮問題での国民の不安を煽って改憲へと誘導していますが、軍事的圧力や9条改憲では北朝鮮問題を解決することはできません。それどころか、逆にアメリカの軍事行動への加担により、朝鮮半島での軍事衝突の危険を増大させることになります。朝鮮半島とアジアの平和は、憲法9条の原則に基づく外交によってこそ、実現できるのです。

総選挙は、改憲諸党の前進を許し安倍9条改憲に道を開くのか、それとも阻むのかを決める重要な機会です。すべての市民が、戦後日本の「戦争しない国」をつくってきた憲法の役割に改めて思いを致し、安倍改憲を許さないという声を挙げましょう。

草の根からの対話と宣伝を広げ、「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」の提起

する3000万署名の運動を大きく成功させましょう。

## 九条の会「全国交流討論集会」開催 3000万署名運動成功めざす

九条の会主催の「全国交流集会」が10月8日、東京文京区で開かれ、全国20都府県、23分野の会から158名が参加しました。

開会あいさつをした小森陽一事務局長は、今回の総選挙では9条の原点が問われているとし、全国の九条の会はどのような役割を果たしていくか、3000万署名をどう展開していくか、交流したいと述べました。

＜山内氏が特別報告＞つづいて世話人の山内敏弘一橋大学名誉教授が特別報告をおこない、「安倍首相は自公与党だけでなく、希望の党、日本維新の会をふくめた形で9条改憲をもくろんでいる」としたうえで、「3項加憲」をとる安倍9条改憲は、徴兵制・軍事的強制の合憲化、基地建設のための強制的土地収容、軍事機密の横行、軍産学複合体の形成、「死の証人」誕生などにつながるものであることを強調しました。

### ＜交流・討論で17人が発言＞

発言では多くの参加者から総選挙で改憲勢力に3分の2をしめさせないとの決意とともに、3000万署名運動を成功させるとの決意が表明されました。

みやぎ憲法九条の会からは、5月3日を中心に、県内129の会がポスターにもなる大型のチラシ50万枚を配布した経験を生かしつつ、今度は3000万署名と結びつけた大判チラシを作成・配布する計画であることが報告されました。

愛知県の九条の会・尾張旭は1070人の会

員を擁し16～20頁のニュースを発行しているが、このニュースやチラシの配布は誰でも参加できる活動として大勢の会員が分担しておこなっていることを紹介しました。

京都・修学院学区九条の会からは、月1回の呼びかけ人会議、月3回の宣伝・署名、月2回の通信の発行のほか近現代史の学習会など日常活動をねばり強くすすめていることが報告され、街頭では女性の「戦争の経験をしたくない」などの反応があるものの、若い人の「核抑止力が必要」の声には対策が必要があることが強調されました。

東京・練馬九条の会からは、選挙のなかでも3000万署名をすすめていくことが強調されるとともに、そのためにも74万の人口をかかえる地域内でのキメの細かい九条の会づくりにとりくんでおり、80、90歳が孫に訴えるようにしようと老人ホームのなかにも九条の会をつくったこと、参加者からは月1回の集まりを楽しみしているとの感想が述べられていることが報告されました。

福島県の九条の会・会津若松は14の校区に九条の会があり、きめ細かく組織化をすすめ、憲法を知る人をいかに増やすかを意識した取り組みをすすめ、選挙運動ではポスターの張り出し運動を計画しています。

討論のなかでは世話人の愛敬浩二さんも、九条の会の原点について発言しました。

**<選挙中も堂々と3000万署名を>** 最後に閉会のあいさつをかねてまとめをおこなった高田健事務局員は、3000万署名運動の意義をあらためて強調するとともに、この運動は公職選挙法にいう選挙運動にはあたらず、この時期こそおおいに展開することが重要であることを強調しました。

## 3000万署名運動スタート

**【群馬県高崎市／高崎九条の会】** 土曜行動、9月16日新署名スタート(38筆)。最初の署名者はアメリカ在住で一時帰国した女性で「心配なのは、日本が再び戦争するのではないか、ぜひ頑張ってください」と励まされ、うれしい出発。

署名台の「憲法9条変えないで下さい」をじっと見ていた中年男性が「9条ってなんですか」と質問してきた。さっそくAさん「二度と戦争はしないと、決めた条文です。戦後70年の平和は、9条の持つ戦争をさせない力だった。しかし、もし自衛隊を憲法に盛り込めば、戦力不保持は吹っ飛んでしまう」と。男性は短時間で署名に応じてくれましたが、9条を知らない人って、少なくないのかも。「嫁から同じことを聞かれた」と話す参加者もいて、話すことの大切さをあらためて、感じる。

一人、ひとりと話せる駅での署名は「私も〇〇市で取り組んでいます」そんな旅先の方からも励ましをもらえます。全国津々浦々を感じる瞬間です。(高崎市「あきらめない」第46号)

## 「憲法9条って何？」の質問も

**【秋田市土崎地区／土崎九条の会】** ある朝、土崎駅前街宣をしていたとき、妙齢のご婦人がまじめな顔をして「憲法9条って何ですか」と質問をしてきました。私はとっさに「え？」と詰まりましたが、「国のあり方を決める最高法規の憲法は、第9条で『日本戦争しません。陸海空軍の戦力も保持しません』と決めています」「安倍首

相がこの憲法9条に自衛隊を書き込み『戦争する国』にするというので、私たちは反対しています」と答えました。彼女は「そうですか。分かりました」といってその場を立ち去りました。

この経験から、皆が分かる言葉で話すことの大切さを改めて感じたほか、国民がよく分からないうちに憲法改正の「国民投票」に持ち込まれる可能性があること、そのためには1人でも多くの有権者と話し合う3000万署名がキーワードになることを考える必要があります。（「土崎九条の会だより」No25）

### 3000万署名への協力訴え

【秋田県／あきた立憲ネット】 あきた立憲ネットは10月1日、JR秋田駅前では緊急アピール宣伝・署名に取り組み、「安倍9条改憲NO！憲法を生かす全国統一署名」を訴えました。

同ネット代表幹事の進藤伸一、山懸稔、虻川高範各氏らが「安保法制（戦争法）廃止、立憲主義回復の立場に立つ真の野党を伸ばすため、みなさんの力を貸してほしい」と呼びかけました。

日本共産党の米田吉正県委員長らが連帯のあいさつ。社民党県連の石田寛代表がメッセージを寄せました。

「潟上九条の会」の鍋島容子さん（73）は「希望の党も戦争法、改憲で中味は安倍政権と一緒に。北朝鮮問題は戦争になってしまったら取り返しがつかない。市民と野党と一緒に力をあわせ、私たちの願いを国会に届ける議員を絶対当選させたい」と訴えました。

90代男性は「憲法を変えてしまったら戦争に巻き込まれてしまう。何としても止めないといけない」と、市民と野党の共闘に期待を寄せました。

### 解散・総選挙へ宗教者が緊急集会

#### 【念仏者九条の会・大谷派九条の会他】

京都市下京区の西本願寺聞法会館で5日、「念仏者九条の会」「大谷派九条の会」「真宗遺族会」「2000年東西本願寺を結ぶ非戦平和共同行動」の5団体が主催する緊急集会「壊すな！憲法9条」が開かれ、多くの僧侶、門徒が参加しました。

開会あいさつで、滋賀県長浜市から参加した長谷良雄氏（大谷派九条の会）は、滋賀2区から真宗大谷派の僧侶である對月慈照（たいげつ・じしょう）氏が市民と野党の統一候補として立候補することを紹介。對月氏の「安保法制を廃止し、立憲主義を回復する」とする決意を代読し、「この志を一つにして応援したい」と述べました。

集会は「壊すな 憲法9条」と題するアピールを採択。憲法の理念に逆行し、国会の冒頭解散を強行した安倍政権を批判。「希望の党」についても「政治姿勢は安倍晋三氏とほとんどかわらない」とし、「市民が託した平和の願いに我々真宗者が踏み出す」「真に平和を願い、誠実に対話を重ね連帯していく」と宣言しました。

### “北の脅威”にどう立ち向かうか

【映画人九条の会】 安倍首相が記者会見で臨時国会冒頭での解散を発表した9月25日、東京都千代田区飯田橋の東京しごとセンター5階セミナー室で「9.25 映画人九

条の会学習集会／安倍改憲と“北の脅威”が行われ、定員 50 名の席がほとんど埋まる参加で成功しました。

講師の山田朗・明治大学教授はまず、日本が軍事費 5 兆円を超えた軍事大国であることを押えた上で「北朝鮮脅威論」を検証し、北朝鮮では通常戦力の無力化が進行して大規模な戦争を継続する能力がないことを明らかにしました。山田教授は、北朝鮮は外貨獲得と宣伝、外交手段としてミサイルと核開発を優先しており、このまま北朝鮮の軍拡が続ければ破綻と崩壊の危険性があると指摘し、日本の対中国戦略の転換、アジアにおける軍拡の連鎖から脱却する道を探ることが重要であると語りました。

そして山田教授は、領土問題や朝鮮半島の緊張を 9 条改憲の突破口にさせないこと、北の脅威論に冷静に対処し、対米追随政策の転換、軍拡の連鎖を断ち切る努力をすることなどを訴えました。

この「9.25 映画人九条の会学習集会」の様子はネット放送局「自由メディア」で放送されています。そちらをご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=dg0mUAJwz>。（「映画人九条の会 mail No72」）

## 共同の力で 9 条改憲阻止を

【青森県／県九条の会など】 青森市で 6 日昼、「戦争法廃止！立憲主義回復！憲法改憲阻止！」で共闘する市民団体と共産党、社民党など 12 団体が共催する「青森市民集会とパレード」が開かれ、120 人が参加。

あいさつした金澤茂・県九条の会共同代表は「今回の選挙の争点は安倍暴走政治そのものです。9 条改憲阻止、立憲主義を回

復するため、私たちは未来を信じ、立憲野党と力を合わせ、全国の仲間と連帯してたたかいましょう」と呼びかけました。

集会では、社民党青森県連の三上武志代表、共産党の吉俣洋東青地区委員長が連帯のあいさつをつ。

集会に参加した建築業の男性（63）は「自殺や過労死する若者をなくしたい。戦争する国に絶対させないために、たたかわないといけない。仕事仲間にも声をかけまくって選挙で安倍政権を倒す。平和が一番なんだ」と力を込め語りました。

## 「平和の鐘つき」に多彩な顔ぶれ

【川崎市多摩区／たま九条の会など】

憲法 9 条にちなんで 9 月 9 日午前 9 時 9 分に鐘をつく「平和の鐘つき」行動が、今年も多摩区登戸の長念寺で開かれました。ほんの少し秋を感じる青空の下、集まった約 50 名の参加者は鐘の音に思いをのせてそれぞれ一つき、世界平和を祈念しました。

その後本堂に移り、住職の小林業善師、元生田教会かむろ牧師の禿準一師の講話を聞きました。

この行動はたま九条の会の主催に多摩区の 3 つの九条の会（生田 9 条、菅九条、登戸九条）が加わっておこなわれるもの。今年で 8 回目となります。

＜鐘つきに参加して 江原進＞ 今年度から生田 9 条の会に参加させて頂きました日本キリスト教団生田教会の江原です。生田教会では、今から丁度 40 年前・1977 年に社会委員会という活動組織を立ち上げ、「教会は社会の中に在って、キリストを信ずる者の集合体として社会の全ての人々と共

に、喜びも悲しみも希望そして時には怒りさえも共有し、共に行動する群れでなければならぬ」という信条の下に、これまで40年余の長きにわたって、地道ではありますがさまざまな活動を続けてきました。（「生田9条の会ニュース」第66号）

## 運動全体の 広がり確認

**【広島県東部9条の会】** 8月27日、尾道市で、広島県9条の会ネットワークに連携して活動を続けてきた県東部地域の九条の会関係者が、4年ぶりに交流会を開催した。6月開催の県ネット全体交流会を契機に、当該の関係者が呼びかけ合って開かれた。尾道・福山・府中・三原を始め、県北部の庄原、三次も買いも参加し、県ネット事務局を交えた40名が10年余にわたる活動の到達点と課題について意見を交換した。

それぞれの会が地域の「総がかり」（的）な運動の中軸を担っているということから、「自身の主張を（一旦）横に置くというスタンスを取らざるを得ない困難さがある」という報告もあったが、運動全体の広がりや会相互の連携については、従来よりも成熟していることが確認できた。（九条の会・三原 上羽場隆弘）（「広島マスコミ九条の会」第71号）

## “だまされず自分の考えを”

**【奈良県橿原市／橿原市9条の会】** 橿原市9条の会は1日、「戦争と平和を考える橿原市民のつどい」を市内で開き、173人が参加し、詩人のアーサー・ビナード氏が「知らなかった、ぼくらの戦争」と題して講演しました。

ビナード氏は、テレビなどが流す権力者側に都合のいい加工された情報だけでなく、本当のことを知らなくてはいけないと強調。アメリカの核政策やトランプ大統領の国連スピーチなどを例に、だまされずに自分の考えを持つことの大切さを述べました。

「戦争を放棄する憲法が生まれたのは、20世紀の奇跡の一つ」と話し、安倍首相が2020年までの改憲を言うなか、憲法をつぶすのか守るのかは、総選挙の有権者の投票行動にかかっていると話しました。

講演前、奈良蟻の会合唱団が「私たちの物語」「日本国憲法第九条」などを合唱しました。

## 「安保と憲法」を継続して学習

### 【前橋市南橋地区／南橋地区九条の会】

9月23日の今回は、前回7月の学習会の続きで、「日米安保条約」の条文を再度読み直しました。

1951、古田茂がサンフランシスコで署名した（旧）日米安保と、1960年1月に岸信介らがワシントンで署名した、（新）安保条約の条文の読み合わせ、「条約」の概略を学習しました。「日米安保条約」と憲法との関係や、私たちの暮らしとどんな関わりがあるのかといった具体的事例にもとづいて検証は、これから順次学んでいきます。

討論の中で、戦争経験者のKさん(99歳)は、「今の沖縄の現状を見れば、これこそが安保体制そのものだ。占領状態時代と同じような状態が、いまだに続いているのではないかと話されました。

（「南橋地区九条の会ニュース」No101）